印西市企画提案型協働事業　事後評価シート（比較表）

記入日　令和8年5月10日
記入団体名　印西子どもの文化連絡会（略称：子文連）
※市の場合は、所管部署名

記入日　令和　8年　5月　14日
記入団体名　生涯学習課
※市の場合は、所管部署名

1．事業概要

事業名称・事業年数		市民に愛され親しまれる印西市立図書館を目指す事業・1年目
事業の実施者	実施団体名	印西子どもの文化連絡会
	所管部署	生涯学習課・大森図書館

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

設問		回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	1．実施した	2．しなかった		
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
				○	

協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

子文連にとって企画提案型協働事業への初めての取り組みだったこともあり、趣旨を理解して協働するための企画提案に整えることが最初の課題だった。また、同様に図書館にとっても市民からの協働事業提案を受け入れることに戸惑いがあったように感じた。市民活動支援センタースタッフやコーディネーターからのアドバイスが心強かった。

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

設問		回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れを参考としましたか。	1．した	2．しなかった		
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
				○	
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
				○	
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
				○	
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
				○	

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

設問		回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	1．実施した	2．しなかった		
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		

協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

提案内容について図書館サービスに適した事業であるか、図書館への要望的な内容となっていないか確認しながら協議を行った。

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

設問		回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れを参考としましたか。	1．した	2．しなかった		
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		

記入団体名　印西子どもの文化連絡会（略称：子文連）

		十分できた	できた	不十分	全くできなかった
協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）	Q8 最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。			○	

協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

前年度にまとめられた図書館サービス計画に沿って、ぜひこの事業の目的達成が実現されるようにという思いで取り組み始めたが、課題の洗い出しからその認識、必要と思われる対策などを共有していく段階が一番苦しかった。
図書館に講演会の経験が少なかったせいか、はたまた子文連の熱量が大きすぎたせいか、賛同してもらって課題解決の道を共に探るという熱意をあまり受けなかった。「仕事が増える」という受け止めには、思いが届かない焦燥を感じ残念に思った。

協働事業実施中	設問	回答			
	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	(1. 行った)	2. 行えなかった		
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた	できた ○	不十分	全くできなかった
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた	できた ○	不十分	全くできなかった
	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	(1. 残した)	2. 残さなかった		

事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

講演会実施に向けて打合せを重ねていくうちに、次第にベクトルの方向が合ってきたと感じられるようになり、講師との交渉、スケジュール調整、費用、役割分担など具体的なことについて率直に意見交換ができるようになった。
講演会では大人も子どもも積極的に参加して楽しんでいた様子で、本に対する興味が強くなったと思う。各図書館の展示でも、利用者の関心を呼び、貸出数も伸びたということで、より愛され親しまれる図書館への第一歩となったと感じた。

協働事業実施後	設問	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。		○		

成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

事前の告知・広報については、広報いんざい掲載、市内各図書館や公民館・コミセン等へチラシ配布・ポスター掲示を行い、スクリレを利用して小中学校の保護者へも案内することができた。そのお陰で申込み開始翌々日には予約満席となる状況で当日の親子参加者も多く盛況だった。

記入団体名　生涯学習課

		十分できた	できた	不十分	全くできなかった
協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）	Q8 最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。		○		

協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

特になし。

協働事業実施中	設問	回答			
	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	(1. 行った)	2. 行えなかった		
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた	できた ○	不十分	全くできなかった
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた	できた ○	不十分	全くできなかった
	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	(1. 残した)	2. 残さなかった		

事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

特になし。

協働事業実施後	設問	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。		○		

成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

実施団体の広報紙や図書館のホームページで講演会の実施内容を掲載した。
また、講演会に際して参加者と共に作成した成果物（紙に書いた木に参加者が鳥の巣のイラストを貼付したもの）を大森図書館、小倉台図書館に展示し、成果発表を行った。

記入団体名　印西子どもの文化連絡会（略称：子文連）

協働事業実施後	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	参加申込み受付は図書館が窓口となり、個人情報を含む参加者名簿は図書館がまとめた。また、講師からのパワーポイント資料の投影に当日トラブルがあったが、図書館スタッフが対応に当たった。 当日の講師接遇、資料準備・配布や受付などは子文連が担当し、参加者による「いのちの木」コラージュ制作の呼びかけも行った。できあがった「いのちの木」は大森図書館と小倉台図書館で夏休み中展示された。	
	Q15 資金負担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	適切だった。 ただ、講師謝礼金を講演後すぐに送金しなければならず、事業費用は完了報告後に子文連に振り込まれるため、一時的に立て替えることになった。金額が大きかったので、事前の申請をするなどで一部前払いの対応ができるなど市として検討をお願いしたい。	

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

	設問	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
協働事業実施後	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。		○		
	実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	実施に向けた検討の中で出てきた気づきや必要な対策などについて、お互いにそのつど相談ができ、意思疎通や意見交換ができるようになったので、当初の計画に対して細かな修正や工夫が加えることができた。				
	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。		○		
	達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	会場の収容人数が100名と限られていたが、事前の参加申込状況（告知翌々日での予定数達成）や当日の参加状況（96名参加）、また会場アンケートからも市民の関心の高さとニーズに合った絵本作家の講演会だったことがわかった。 コスモスパレット開館後のタイミングであれば、より多数の収容人数が見込め、趣旨に合った使い方が可能だったかと思った。				
	Q18 経費の支出は適切でしたか。		○		
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。				
	特になし				

記入団体名　生涯学習課

協働事業実施後	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	当初はそれぞれの役割分担が曖昧であったが、その都度の話し合いにより役割を確認しながら進め、協働事業を計画どおり実施することができた。	
	Q15 資金負担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	実施した協働事業が業務委託料で過不足なく適切に実施できた。	

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

	設問	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
協働事業実施後	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。		○		
	実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	講演会について、当初の計画どおり夏休み開始直後に実施することができた。				
	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。		○		
	達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	講演会の参加者数は当日キャンセルはあったが満席であった。 講演会実施以降の大森図書館の利用者数（９～１１月）が前年度と比較して増加していたことから、一定の効果はあったと思われる。				
	Q18 経費の支出は適切でしたか。		○		
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。				

記入団体名　印西子どもの文化連絡会（略称：子文連）

協働事業実施後		十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
	Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか		○		
	効果があった点や課題を具体的に記入してください。				
	事前申込に千葉県電子申請サービスを利用できたことや、図書館による参加申込者の個人情報管理ができたこと、広報において周知のためのスクリレ利用、広報いんざいの特別枠掲載、ポスター・チラシの配布・掲示のため図書館連絡車や市役所内連絡棚の利用ができたことなどは、単独団体ではむずかしく行政の組織力を感じた。				
	Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	1．思う	2．思わない		
	改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。				
	事業実施を子どもたちの夏休み期間中にしたことから、当日の親子参加や事前事後の図書館での展示の工夫につながったこと。図書館での講師作品展示、事後の市民参加コラージュ「いのちの木」の展示など、市民の図書館への関心が高まり足を運ぶ機会が増えた。地域における公共図書館のポテンシャルに気づくきっかけになったと思う。				

感想及び意見

数値では表せない、事業を実施している中で感じた、現場の変化や声などをご記入下さい。

市民活動団体として初めての企画提案型協働事業に参加して、行政の仕組みや書類手続きのことなど学ぶことが多かった。改めて、担当の生涯学習課や図書館、市民活動推進課、市民活動支援センターやコーディネーターの方々の支援や助言に感謝申し上げたい。
今回の事業がきっかけとなり、その経験を活かして、図書館主催事業がよりブラッシュアップして継続されていくことを願っている。
2026年度の企画提案型協働事業募集が本事業実施前に始まったが、実施・ふりかえりをしないまま次の提案はできないと考え、2026年度の事業提案は見送りとした。また2027年度についてはいくつかの企画案はあったが、小倉台図書館が改修工事に入ることや、市の組織変更に伴い新たに図書館課が設けられ外部から新館長が着任するなどの変化があることを踏まえ、今後の図書館運営について市民としてどんなことができるかを考え、印西市のよりよい図書館づくりのために協働していく道を共に探していきたいと思っている。

今後の展望

事業の今後についての見通しをご記入ください。

子文連の個々の団体での講演会は今年度すでに計画されて進められている。また、34年ぶりに教育委員会から発行された印西の民話絵本『光堂の竜』の周知と活用についても、子文連として役立つことができればと考えている。
本事業に参加したことで、図書館の皆さんと話す機会も増えたので、今後も連携を密にして共に「市民に愛され親しまれる印西市立図書館」を作っていきたいという思いを強くしている。

記入団体名　生涯学習課

協働事業実施後		十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
	Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか		○		
	効果があった点や課題を具体的に記入してください。				
	講演会講師の手配やポスターの作製などが非常にスムーズであったこと、また講演会当日の参加型企画（「鳥の巣の木」の作成）など、市民団体ならではのアイデアがあり、事業実施にあたって単独で実施するよりも効果的であった。				
	Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	1．思う	2．思わない		
	改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。				
	前年度に比較して、大森図書館の利用者数が増加したことから、新規事業の実施により今まで来館しなかった層の図書館来館の機会を生むことができたと思料している。				

感想及び意見

数値では表せない、事業を実施している中で感じた、現場の変化や声などをご記入下さい。

講演会の準備・実施を通じて、企画の進め方や講師対応などの実践的な運営ノウハウを学ぶとともに、関係者との連携の重要性を実感した。

今後の展望

事業の今後についての見通しをご記入ください。

参加者や団体の意見を基に、これからも愛され親しまれる図書館を目指し事業を計画していく。

印西市企画提案型協働事業　事後評価シート（比較表）

記入日　令和　8年　5月　6日
記入団体名　ベジガールズ全世代に向けた運動支援
※市の場合は、所管部署名

記入日　令和8年5月11日
記入団体名　健康子ども部保育幼稚園課
※市の場合は、所管部署名

1．事業概要

事業名称・事業年数		年長さん思い出プロジェクト　身体の基盤作り・2年目
事業の実施者	実施団体名	ベジガールズ　全世代に向けた運動支援
	所管部署	健康子ども部保育幼稚園課

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

設問		回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	1．実施した　◯2．しなかった			
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
					○

協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

提出前の協議については、担当者変更等により相談先進め方が分かりにくい場面がありました。今後窓口や手続きの流れについて分かりやすい案内があるとより円滑に進められると感じました。

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

設問		回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れを参考としましたか。	①．した　2．しなかった			
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		

協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

協働事業において担当者変更時の引継ぎが十分でないと感じる場面があり、都度初めてのやり取りとなることがありました。今後は引継ぎ情報共有がより充実することで、継続的かつ円滑な連携につながると感じました。

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

設問		回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	① 実施した　2．しなかった			
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		

協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

特にございません

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

設問		回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れを参考としましたか。	① した　2．しなかった			
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		

協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

特にございません

記入団体名　ベジガールズ全世代に向けた運動支援

	設問	回答			
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	①. 行った　2. 行えなかった			
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
				○	
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	①. 残した　2. 残さなかった			
	事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。				
	プログラム内容が事前に整理されていたこともあり、打ち合わせ事項は限定的でした。全体としても円滑に進行しており大きな課題も特に発生しませんでした。				

	設問	回答			
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
					○
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。				
	データや写真、動画等については、保育園側のご意向も踏まえ公開を控えているため情報発信は実施しておりません。今後は関係者の意向や個人情報に配慮しつつ、可能な範囲での発信を検討していきたいと考えています。				
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	①. 適切　2. 適切でない			
	回答の理由を詳しく記入してください。				
	園との連絡調整は担当課が主体的に対応してくださり、園側も日程や時間の調整に柔軟にご協力いただきました。また、当日の進行についても円滑に対応いただき、全体のスケジュールを滞りなく進めることができました。				
	Q15 資金負担は適切でしたか。	①. 適切　2. 適切でない			
	回答の理由を詳しく記入してください。				
	当初の予算計画に基づき、適切に事業実施・終了することができました。				

記入団体名　健康子ども部保育幼稚園課

	設問	回答			
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	① 行った　2. 行えなかった			
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	① 残した　2. 残さなかった			
	事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。				
	特にございません				

	設問	回答			
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
				○	
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。				
	保育園年長児を対象とした協働事業のため、対象外の市民への情報発信は行っていない。				
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	①. 適切　2. 適切でない			
	回答の理由を詳しく記入してください。				
	企画提案型協働事業提案書の事業の内容のとおり、役割分担を行い実施した。				
	Q15 資金負担は適切でしたか。	①. 適切　2. 適切でない			
	回答の理由を詳しく記入してください。				
	資金負担が、主に人件費及び交通費であり、協働事業の実施に当たり必要不可欠なものであると認識している。				

記入団体名　ベジガールズ全世代に向けた運動支援

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

	設問	回答			
協働事業実施後	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○			
	実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	当初の計画に基づき、概ね予定通り事業を実施することができました。また、必要なデータ収集についても適切に行うことができました。				
	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○			
	達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	様々な運動に触れる機会を提供することで運動への関心や意欲を高めるきっかけづくりにつながりました。また、5園においても各3回、計画どおり100%実施することができました。				
	Q18 経費の支出は適切でしたか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○			
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。				
	経費については、経費の基づき適切に執行しました。				
	Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
		○			
	効果があった点や課題を具体的に記入してください。				
	外部講師による運動指導の機会が限られている中で、本事業の実施により、園児にとって身体を動かすことの大切さを学ぶ良い機会となり、協働による効果があったと感じます。				
	Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	①. 思う　　2. 思わない			
	改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。				
	本事業を通じて身体を動かすことの大切さについて理解を深める機会を提供するこができて政策2の推進に寄与する取り組みとなったと感じます。				

記入団体名　健康子ども部保育幼稚園課

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

	設問	回答			
協働事業実施後	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
			○		
	実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	計画書のとおり打ち合わせやスケジュール確認をし、事業実施回数のとおり実施できた。				
	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
				○	
	達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	各保育園で各3回事業を実施し、参加人数は延べ285名であった。前年度は半年かけて、各6回の運動指導を行い、片足立ちの保持時間の延長や足指じゃんけんの可能実数が明らかに増えていたが、今回は各3回で、短い期間だったためか、大きな差を見ることができなかった。 しかしながら、園アンケート結果からも楽しみ、学びながら意識や意欲が高められた。				
	Q18 経費の支出は適切でしたか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
			○		
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。				
	Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
			○		
	効果があった点や課題を具体的に記入してください。				
	児童の体力向上等を図るため、保育園職員だけでなく、理学療法士等の専門的見地からの指導が行えた。				
	Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	①. 思う　　2. 思わない			
	改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。				
	三者協議から、現状としての課題として、身体活動の減少、体幹機能の低下、手足の機能低下が挙げられたが、バランスボールを使用した運動により、意識や意欲が高められた。				

記入団体名　ベジガールズ全世代に向けた運動支援

感想及び意見 数値では表せない、事業を実施している中で感じた、現場の変化や声などをご記入下さい。
協働事業として実施する中で、次年度の実施内容については初年度の実施後、比較的早い段階で調整が行われ、結果として今年度は実施回数が3回に見直されました。保護者からは回数減少に対するご意見も見られました。一方で子供がご家庭で活動について楽しそうに話していたとのお声をいただく場面もあり事業の効果を感じることができました。
今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。
今後は、委託事業として年長児を対象とした運動機会の創出につながるよう、引き続き協議を進めていきたいと考えています。協働事業終了後に委託事業へ移行する場合の手続きや進め方についても、あらかじめ整理されるとより取り組みやすくなると考えます。

記入団体名　健康子ども部保育幼稚園課

感想及び意見 数値では表せない、事業を実施している中で感じた、現場の変化や声などをご記入下さい。
運動の大切さを知る機会となった。ボールに座り、リズム運動することで、運動が苦手な子も取り組むことかできた。できたことの達成感を味わうことができた。身体の構造の話をしたことで自分の身体に興味を示し、姿勢や呼吸を意識していた。。曲ごとにテーマを決めて行ったことで、わかりやすく取り組むことができた。子供達のレベルに合わせたカリキュラムで飽きずに取り組む事ができた。
今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。
令和8年度においても、引き続き協働事業により運動機能の向上に資する。

印西市企画提案型協働事業　事後評価シート（比較表）

記入日　令和　8年　5月　10日
記入団体名　NPO法人ハートフル コミュニケーション千葉エリア
※市の場合は、所管部署名

記入日　令和　8年　4月　28日
記入団体名　子ども家庭課
※市の場合は、所管部署名

1. 事業概要

事業名称・事業年数		虐待予防事業「子育てを学ぼう！乳幼児期から始める子どものコーチング」・2年目
事業の実施者	実施団体名	NPO法人ハートフルコミュニケーション千葉エリア
	所管部署	子ども家庭課

2. 事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

設問		回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	☑1. 実施した　2. しなかった			
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。					
昨年度の結果を踏まえて、今年度は目標値を達成するために、課題点と今年度の目標のすり合わせを十分に行った。実施途中で課題が出た場合も、すぐに協議しお互いの役割の元、解決策を見出し実行できた。					

協働事業開始前（提案書提出前）

設問		回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	(1.)実施した　2. しなかった			
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。					
特にございません					

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

設問		回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れを参考としましたか。	☑1. した　2. しなかった			
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。					
目標値を達成できるために、対象者のニーズを把握することに努め、現実的にできる具体的な方策を双方で出し合い、実現可能な方法を具体化した。					

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

設問		回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れを参考としましたか。	(1.)した　2. しなかった			
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。					
特にございません					

記入団体名　NPO法人ハートフル コミュニケーション千葉エリア

	設問	回答
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	☑1. 行った　2. 行えなかった
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた：○　できた：　不十分：　全くできなかった：
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた：○　できた：　不十分：　全くできなかった：
	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	☑1. 残した　2. 残さなかった
	事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。	
	子育て中の方が対象のため、子どもの体調によって休むことが当然予測されたため、申し込みの基準を全日程参加ではなく、全部出られなくても参加可能にするなど、申し込みのハードルを下げる工夫を話し合った。それでも、子どもの預け先がなく、やむなく欠席する場合もあったため、アンケートにて、参加するためにどのような工夫をしたかを記入してもらい、他の方の参加のヒントになるように情報収集に努めた。	
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた：　できた：○　不十分：　全くできなかった：
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。	
	①乳幼児期の講座では、じどう館でチラシを配布していただくときに、講座の内容や良さなどを周知してもらえるようにお願いしていただいた。 ②学童期向けの講座の時には、乳幼児期の講座に参加した人が、引きつづき参加してくれて、講座の良さを他の参加者に伝えてくれていた。 ③講座に参加した地域子育て支援センターのスタッフが、職場やその利用者に情報の共有をしてくれていた。 ④受講した方が口コミで、よかったことを他の子育て中の方に伝えてくれている。 主催者側からの働きかけをしないでも、受講生が自発的に情報を発信してくれていた。	
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	☑1. 適切　2. 適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	昨年度同様、講座の計画、運営、アンケートの集計は実施団体が行い、申し込み・参加者管理は担当課が行うという役割分担は明確になっていた。広報・チラシの内容に関しては、市の主催講座であるために、文言や表現、言いまわしなども適切であるかを担当課にチェックをしていただくなど、責任の所在は常に明確にしながら作業を進められた。	
	Q15 資金負担は適切でしたか。	☑1. 適切　2. 適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	予算通り行った。	

記入団体名　子ども家庭課

	設問	回答
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	(1.)行った　2. 行えなかった
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた：　できた：○　不十分：　全くできなかった：
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた：　できた：○　不十分：　全くできなかった：
	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	(1.)残した　2. 残さなかった
	事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。	
	特にございません	
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた：　できた：○　不十分：　全くできなかった：
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。	
	参加者同士で情報交換ができる場を設け、それぞれの気持ちや考えなどに耳を傾けていく中で、ひとりひとりに合った親子間における適切な関係性の構築方法について考え、参加者同士で気持ちの共有を図った。	
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	(1.)適切　2. 適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	協働事業計画書の役割分担通り実施し、スムーズに事業を運営することができた。	
	Q15 資金負担は適切でしたか。	(1.)適切　2. 適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	企画提案型協働事業経費内訳書のとおり実施することができた。	

記入団体名　NPO法人ハートフル
コミュニケーション千葉エリア

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

協働事業実施後

設問		回答			
		十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q16	事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	○			

実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

①乳幼児期6回連続講座は滞りなく実施できた。
②学童期4回講座は滞りなく実施できた。

		十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q17	当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	○			

達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

①目標値は定員の6割。乳幼児期の定員は10名×6回=60名。乳幼児期の子どもの体調面から全講座に参加してもらうことは難しい。昨年度、定員よりも多くの申し込みをとったほうが良いとのご指摘を受けたので、今回は22名の申し込みを受けた。今回、実際毎回平均10名の参加があったので、目標値の6割ををはるかに超え参加率は100%。
②学童期の定員は20名×4回＝80名。こちらも定員を超える申し込みがあった。実際の参加者は全部で55名。参加率は69%となり、目標値の6割を超える結果となった。
参加者のアンケートでも、すべての講座において、満足度は満足、大いに満足にチェックが入った。

		十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q18	経費の支出は適切でしたか。	○			

適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。

		十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
Q19	協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	○			

効果があった点や課題を具体的に記入してください。

参加者のニーズを掴むこと、それをプログラムに反映させることなど講座内容に関しては、全面的に実施団体の専門性を信頼していただけたため、十分な内容を提供できた。
広報・集客に関しては、市の広報ツールをより効果的に使うために、参加者に届くワードを実施団体が提供することで、より必要な人に届けられ、応募者が増えた要因となった。チラシの作成やアンケートの作成集計を実施団体が行ったことにより、市の負担が減り、その分、広報や周知に力をかけていただけたのではないかと考えている。

Q20	事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	☑1．思う　　2．思わない

改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。

事業目的は、育児不安の解消、虐待予防であり、体罰によらない子育て方法として、コーチング的対話を取り入れたその具体的なやり方を持ち帰ることであった。
講座前のアンケートでの参加動機の1位が「子どもとの接し方を知りたい」
2位が「イライラをどうにかしたい」であったが、講座後の講座を受けて変わったことの具体的な記述に「イライラが減った」という回答が特に多く、ワークによる実践的なやり方を得たという回答も多かった。

記入団体名　子ども家庭課

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

協働事業実施後

設問		回答			
		十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q16	事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	○			

実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

年間事業スケジュール通り講座を開催することができた。

		十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q17	当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	○			

達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

講座のアンケートの結果から事業の目的は達成できたと考える。
・乳幼児期子育て連続講座：定員10人（申込者数20人）
・学童期子育て連続講座：定員20人（申込者数29人）

		十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q18	経費の支出は適切でしたか。	○			

適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。

		十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
Q19	協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。		○		

効果があった点や課題を具体的に記入してください。

講座後の参加者アンケートにおいて、「こんなにこどもに対する向き合い方を考える機会がなかったので、すごく貴重な時間となりました。」、「たくさん話せて、自分の子育てや声掛けのやり方を考えなおすきっかけになり、とても役に立っています。」、「自分が悩んでいることがすっきりしました。」などの前向きな意見が多くみられた。

Q20	事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	(1.)思う　　2．思わない

改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。

令和6年度の課題として定員に達しなかったことを挙げたが、令和7年度は、市公式LINEなどのSNSによる周知を行ったことで、定員を超える申込みがあった。

記入団体名　NPO法人ハートフル
コミュニケーション千葉エリア

感想及び意見 数値では表せない、事業を実施している中で感じた、現場の変化や声などをご記入下さい。
①連続講座なので、教わったことを2週間の間にやってみて、次の回にその結果をシェアできることで、学びが定着 していることが感じられ、学びのPDCAサイクルが回っていたことが分かる。 ②他の参加者の発言や対話の中から気付きが得られているのは、講座内の発言やアンケートの記述からも明確である。 ③回を追うごとに話しやすい雰囲気ができ、講座をきっかけで地域でのつながりができている。これが育児の孤立化の解消につながっている。 ④子育てのやり方を見つけられている。知識の付与や体験学習による効果と思われる。
今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。
来年度も事業を続け、さらにその後も継続して講座を行うことができれば、乳幼児期に参加した世代がまた、子どもが小学校・中学校になり新たな課題に直面したときにも学ぶ場に参加できる。子育ては18歳まで連続して続き、子どもの成長によって課題が変わるため、今後も市の事業として継続していけること形を作っていきたい。

記入団体名　子ども家庭課

感想及び意見 数値では表せない、事業を実施している中で感じた、現場の変化や声などをご記入下さい。
最初は緊張していた親同士も、グループワークやロールプレイを行うことで、自然と会話が増え、互いに悩みを打ち明けたり、子育ての情報交換をする姿が見られるようになった。「同じ悩みを抱えていることを知り安心した。」、「ここで知り合った方と子育て相談ができたことで、心が軽くなった。」と話す参加者も多く、参加者同士の距離が縮まることで、互いに励まし合いながら、前向きに子育てに取り組もうとする姿勢が育まれていると感じた。また、事業をきっかけに新しい友人や相談相手ができ、その後も自主的に連絡を取り合い、支え合っている様子も見受けられ、こうしたつながりは、一人で悩みを抱え込まない大切な土台になっていると実感する。
今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。
同じ悩みや不安を抱える保護者同士が相互に悩みや不安を相談し、情報の交換ができる場を設けることで、親子間における適切な関係性の構築を図り、児童虐待の未然防止につなげていきたいと考える。

印西市企画提案型協働事業　事後評価シート（比較表）

記入日　令和 8 年　4月 30 日
記入団体名　NPO法人亀成川を愛する会
※市の場合は、所管部署名

記入日　令和8年5月15日
記入団体名　都市整備課(公園緑地課)
※市の場合は、所管部署名

1．事業概要

事業名称・事業年数		市民参加で守る別所谷津公園の谷津の生態系・2年目
事業の実施者	実施団体名	NPO法人　亀成川を愛する会
	所管部署	都市整備課(公園緑地課)

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

設問		回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	(1．実施した)	2．しなかった		
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			

協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。
いずれの課も理解があり、共生サイト登録やまちづくりファンドによる事業など、協働事業だけではない業務量が各段に増えたにもかかわらず、各課より必要な協力・助言を得ることができた。

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

設問		回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れを参考としましたか。	(1．した)	2．しなかった		
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			

協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。
毎月6回以上敷地内で活動する月もあり、活動内容及び量が相当数になるため、機器材類や道具類の運搬の軽減を図ることを目的として、敷地内に物置を設置できればと願っている。2026年度の課題となるので、よろしくお願いいたします。

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

設問		回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	(1．実施した)	2．しなかった		
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			

協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。
令和6年度に引き続き2年目の実施となり、協議は概ね円滑に進行した。

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

設問		回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れを参考としましたか。	(1．した)	2．しなかった		
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			

協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。
令和6年度に引き続き2年目の実施となり、協議は概ね円滑に進行した。

記入団体名　NPO法人亀成川を愛する会

	設問	回答
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1．行った　2．行えなかった
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった
	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	1．残した　2．残さなかった
	事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。	
	1　印西市まちづくりファンド申請について 　都市整備課におかれては、申請にあたって、現地での検討や業者選定など、さまざまな場面で多くの協力を得た。 2　共生サイト登録申請 　環境保全課におかれては、申請者が印西市となるため、県との調整など、たいへんな業務増加であったと推測されること、都市整備課におかれては、本来の事務内容とは外れているにも拘わらず、たいへんな協力をいただいた。	

	設問	回答
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた　できた：○　不十分　全くできなかった
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。	
	成果ではなく、まだ途上であるが、活動については、逐次フェイスブック、ブログ、インスタなどで、情報発信している。 また、スクリレ配信に協力を得たことで、活動やイベントについて、すみやかに、簡単に市民に知らせることができた。	
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	当初の申請通り、それぞれの役割をきちんと実行できた。	
	Q15 資金負担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	協働事業を始める前は、参加者は無償ボランティアであったが、少ないながら、交通費くらいは出すことができた。調査の講師費用が認められたので、当会の予算ではどうしても捻出できなかった機械のレンタルなどに予算を振り分けることができた。どの団体にも当てはまることと思うが、できれば、事務手当も検討願えればありがたい。	

記入団体名　都市整備課(公園緑地課)

	設問	回答
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1．行った　2．行えなかった
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった
	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	1．残した　2．残さなかった
	事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。	
	実施団体との協議を通じて、当該緑地をより良くしたいという意向が明確に確認できた。実施団体の活動に寄り添い、必要な支援を行うことを意識して対応した。	

	設問	回答
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。	
	市民に対しては、イベントごとのチラシ配布およびスクリレ配信を活用し、活動内容の周知を行った。	
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	協働事業計画書のとおり実施することができ、適切であった。	
	Q15 資金負担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	協働事業実施計画書のとおり概ね執行しており、適切であった。	

記入団体名　NPO法人亀成川を愛する会

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

	設問	回答			
協働事業実施後	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
			○		
	実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	1　会員の努力により、緑地の陸地化を防ぐための草刈りや田んぼ型湿地作りに、多くの労力を使い、今後の陸地化阻止のめどがたった。 2　市民参加については、当初計画したイベント（関連イベントを含む）はすべて実施できたが、参加については、関連イベントのホタル観察会などの楽しいものに人気があり、保全活動に直にはつながらない現実がある。行政の協力によるスクリレ配信やちらしの各戸配布など、PR活動については、できることは実施している。しかし、保全活動への参加が少ないことは、どの市民団体も抱えている、活動継続危機問題があるため、今後の対策については、行政も含め、多くの知恵を絞る必要がある。				
	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
			○		
	達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	下記に一覧表を追記				
	Q18 経費の支出は適切でしたか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○			
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。				
	Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
		○			
	効果があった点や課題を具体的に記入してください。				
	効果 1　スクリレ配信によるPRなど、一般市民への周知が効果的にスムーズにできた。 2　まちづくりファンドによる整備事業申請が許可された。 3　共生サイト登録の登録者が市となることによって、将来的な保全活動維持のめどがたった。 課題 公園緑地課と環境保全課の2課にまたがるため、両課の協力は充分であったが、会としては、とまどうこともあった。				

記入団体名　都市整備課(公園緑地課)

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

	設問	回答			
協働事業実施後	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○			
	実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	緑地の保全活動、田んぼ型湿地の回復作業、動植物調査、市民参加型イベントの実施等を行い、計画どおりに進捗した。				
	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○			
	達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	緑地整備および田んぼ型湿地回復作業の参加者数は延べ264人（目標140人）で、うち市民参加は61人（目標20人以上）となり、目標値を大幅に上回った。動植物調査の参加者数は延べ84人であり、事業全体では延べ369人参加した。 ホタルやトンボの産卵場所確保を目的とした田んぼ型湿地の回復については、湿地面積を3倍に拡大し、目標（現状の2倍以上）を達成した。				
	Q18 経費の支出は適切でしたか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○			
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。				
	協働事業実施計画書のとおり執行していることを確認した。				
	Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
		○			
	効果があった点や課題を具体的に記入してください。				
	実施団体は当該緑地の改善に対する意欲が高く、行政が関与することで予算面を含め事業運営の円滑化につながった。また、市民参加型の保全イベントは、当該地域の生態系等を熟知する実施団体の知見を踏まえて実施できたものである。				

記入団体名　NPO法人亀成川を愛する会

協働事業実施後	Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	(1. 思う)　2. 思わない
	改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。	
	1. 予算がついたことにより、機器材のレンタルなどが可能となり、保全作業が格段にはかどったこと、まちづくりファンドによる整備事業が実施できたことにより、市民が参加しやすい土台作りができた。 2　共生サイト登録が完了することにより、企業などに対して、協力要請のPRとなる。	

感想及び意見

数値では表せない、事業を実施している中で感じた、現場の変化や声などをご記入下さい。

1　行政の大きな協力と理解を得られたことに感謝している。
2　残念なことに、裕福な世代が高齢化し、ボランティア参加者から退出しつつあること、社会情勢が大きく変わって、高齢になるまで働かなくてはならない世の中となったことと余裕のある主婦層の激減などにより、市民ボランティアによる市民活動のうち、とりわけ危機意識の少ない自然保全活動においては、活動持続のための人材確保が大変難しい状況となっている。
3　緑と都市機能が共生することによって、魅力あるまちとなっている印西市ではあるが、いまだに開発が進み、農業が衰退する現実の中で、生物多様性はどんどん劣化している。たとえば、どこにでもたくさんいたトウキョウダルマガエル（トノサマガエル）が、亀成川流域では、ほとんど見られなくなっている。里山生態系やみどりの景観の維持には、農地を守ることが差し迫った課題であるが、2からもわかるように、市民の力ではとうてい対応できない現実がある。

今後の展望

事業の今後についての見通しをご記入ください。

市が取り組もうとしているグリーンインフラを活かすまちづくりやランドスケープマネジメントセンターの設立により、市民と行政と企業が連携して、里山生態系と景観を守るシステムが確立し、実行されることを望んでいる。

記入団体名　都市整備課(公園緑地課)

協働事業実施後	Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	(1. 思う)　2. 思わない
	改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。	
	生物多様性の維持・増進に資する環境整備および調査を実施することができた。加えて、市民参加型の自然観察会や保全活動を通じて、市民に当該地域の自然的価値を周知する機会を創出した。	

感想及び意見

数値では表せない、事業を実施している中で感じた、現場の変化や声などをご記入下さい。

市民参加型イベント「ホタルの里山探検隊」シリーズは年8回開催し、実施団体会員以外の市民参加は延べ102人であった。回によって参加者数にばらつきはあったが、保全活動の参加促進の契機となった。
また、保全活動の担い手不足は実施団体に限らず共通課題であり、今後も、イベント実施や当該緑地のPRのあり方について、団体と継続的に協議する必要がある。

今後の展望

事業の今後についての見通しをご記入ください。

令和8年度においても引き続き協働事業として委託する。令和6年度開始の3年事業であり、令和8年度で一区切りとなるため、令和9年度以降の継続方針についても、団体および関係課と協議を重ねる。

3　事業の評価　追記
成果目標（講座開催数や人数、草刈り等の回数、発行回数、配付数量等）

事業の目標と実際の達成値

	内容	目標回数	実施回数	目標人数	実際人数
保全活動	草刈等	24	69	150	234
	田んぼ型湿地	2	5	10	30
	昆虫調査(ホタ	5	6	10	17
	植物調査		3		15
	ホタル調査	8	16	16	34
	魚類等調査		2		18
	合計	39			
	うち市民参加			40	114
イベント	ごみ拾い、観察会		8		147

上記イベントの内容（ホタルの里山探検隊イベント及び関連イベント）

日月	内容	参加者数	うち会員外
4月26日	ホタルの里山の探検とホタルを守るごみ拾い	23	18
5月3日	春の花の観察会と保全体験	8	3
5月31日	ゲンジボタル観察会（別所）	35	22
6月28日	水辺の生き物・トンボ観察会	18	11
7月25日	アメザリ駆除体験	10	8
7月27日	ヘイケボタルと夜の生き物観察会	20	15
11月6日	ホタルの谷津のごみ拾いとアメザリ罠体験	10	6
3月14日	ニホンアカガエルの卵塊探しと冬のいきもの観察	23	19
合計		147	102

印西市企画提案型協働事業　事後評価シート（比較表）

記入日　令和8年5月9日
記入団体名　NPO法人エコネットちば
※市の場合は、所管部署名

記入日　令和8年5月15日
記入団体名　都市整備課(公園緑地課)
※市の場合は、所管部署名

1．事業概要

事業名称・事業年数		竹袋調整池と周辺地域の維持管理事業・17年目
事業の実施者	実施団体名	NPO法人 エコネットちば
	所管部署	都市整備課(公園緑地課)

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

設問		回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	(1．実施した)	2．しなかった		
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。					
特にございません。					

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

設問		回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れを参考としましたか。	(1．した)	2．しなかった		
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。					
特にございません。					

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

設問		回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	(1．実施した)	2．しなかった		
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。					
平成21年度から協働事業として継続実施していることから、協議は円滑に進行した。					

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

設問		回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れを参考としましたか。	(1．した)	2．しなかった		
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。					
平成21年度から協働事業として継続実施していることから、協議は円滑に進行した。					

記入団体名　NPO法人エコネットちば

	設問	回答
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1．行った　2．行えなかった
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった
	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	1．残した　2．残さなかった
	事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。	
	活動に当たる者一人ひとりが契約内容、担当課との協議内容等を理解して活動に臨めるよう心掛けた。	

	設問	回答
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。	
	・花畑の開花状況を市HPで紹介いただくことができた。 ・令和7年10月18日（土）から開催した「コスモスふれあいまつり」では、来場者へのアンケート（回答者98名）を取り、来場される方の意見や行動について把握することができた。 ・来場者がSNSに画像等をアップし、自ずと情報発信が行われ、多くの方の来場のきっかけになっている。	
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	・適時、情報提供や相談を実施することができていたため。	
	Q15 資金負担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	・頂いた委託費内で実施することができたため。	

記入団体名　都市整備課(公園緑地課)

	設問	回答
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1．行った　2．行えなかった
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった
	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	1．残した　2．残さなかった
	事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。	
	実施団体の継続的かつ精力的な活動により、当該地域は景観に恵まれた市民の憩いの場となっている。実施団体による対応が難しい倒木処理等については市が実施するなど、団体の活動に寄り添った支援を行うことを心掛けた。	

	設問	回答
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた：○　できた　不十分　全くできなかった
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。	
	市ホームページにおいて、季節の花の開花情報を掲載した。	
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	協働事業計画書のとおり実施することができ、適切であった。	
	Q15 資金負担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	協働事業実施計画書のとおり概ね執行しており、適切であった。	

記入団体名　NPO法人エコネットちば

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

	設問	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
協働事業実施後	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	○			
	実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	・草刈り、花畑の植栽等の維持管理業務は計画通り実施完了。 ・当初の計画にはなかったが、担当課との話し合いにより「コスモスふれあいまつり」でのアンケートを実施・集計したことで、来場者の意見や行動を記録に残す形をとることができて有意義なものになった。				
	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	○			
	達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	・計画書（草刈り7回、耕運6回、施肥6回、苗植え2回、種蒔2回、消毒3回、除草6回など）通りの実績を残せたほか、ほぼ毎日の見回り、適宜行ったごみ拾い・放水口のごみ除去なども行うなど、細やかな活動が行えた。				
	Q18 経費の支出は適切でしたか。	○			
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。				
	Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。		○		
	効果があった点や課題を具体的に記入してください。				
	・来場者からは、称賛の声とともに「誰が手入れや管理をしているのか」と聞かれることが多く、市と市民との協同事業として実施されているものであると説明をすると、安心感を持たれたり感心される方がほとんどであった。				
	Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	1．思う	2．思わない		
	改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。				
	・年間を通した事業実施により、竹袋調整池と周辺地域の自然豊かで景観に恵まれた市民の憩いの場として維持することができました。また、花の見ごろ時期に合わせて開催した「芝桜まつり」や「コスモスふれあいまつり」では市内外から多くの方に足を運んでいただくことができ、印西市の魅力の一つとして発信できたと思っております。				

記入団体名　都市整備課(公園緑地課)

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

	設問	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
協働事業実施後	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	○			
	実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	年間を通じた草刈や花畑の植栽等の維持管理に加え、4月の芝桜まつり、10月のコスモスまつりを当初計画どおり実施した。				
	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	○			
	達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	計画どおりの草刈等に加え、日常的な見回りやごみ拾い等の計画外の活動も実施団体が継続して行った結果、市民の憩いの場として良好な環境が維持されている。				
	Q18 経費の支出は適切でしたか。	○			
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。				
	協働事業実施計画書のとおり執行していることを確認した。				
	Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	○			
	効果があった点や課題を具体的に記入してください。				
	実施団体には当該地域を市民の憩いの場としたいという明確な目的があり、行政が関与することで予算面を含め事業運営の円滑化につながった。また、コスモスまつりで実施したアンケートでは、回答者98人全員が「来年も来たい」と回答しており、団体との協働により魅力あるイベントとして定着していることが確認できた。				
	Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	1．思う	2．思わない		
	改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。				
	定期的な草刈りや花壇整備等を通じて自然豊かな景観を保全し、市民の憩いの場としての機能を維持できた。				

記入団体名　NPO法人エコネットちば	記入団体名　都市整備課(公園緑地課)
感想及び意見 数値では表せない、事業を実施している中で感じた、現場の変化や声などをご記入下さい。	**感想及び意見** 数値では表せない、事業を実施している中で感じた、現場の変化や声などをご記入下さい。
・「コスモスふれあいまつり」で実施したアンケートでは、市内県内から足を運んでくださった方の他に県外（埼玉県入間市、茨城県利根町）から足を運んでくださった方もいることがわかりました。遠方からでもぜひ行きたいと思っていただけるような魅力が徐々に広がりを持ってきていると実感しておりますし、来場者の増加、また、素敵な場所ですねと直接お声掛けいただけることが、私たち活動者の励みになっています。	当該地域は、イベント未開催時においても散歩コースとして利用されるなど、市民が日常的に訪れる場所となっている。コスモスまつりのアンケートでは、市外在住の回答者が98人中46人と多く、印西市内に限らず近隣市からの来場も確認された。実施団体の長年にわたる活動により、広域的にも魅力のある地域として形成されている。
今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。	**今後の展望** 事業の今後についての見通しをご記入ください。
訪れる人の心が和む印西の花名所として、より多くの皆さんに来ていただけるよう花植えなどに工夫を凝らしながら、環境整備と維持管理に引き続き努めていきたい。	市民団体の継続的な活動により、四季の花の観光名所として定着し、多くの来訪者の交流の場となっている。引き続き団体と協働し、来場者が安全かつ快適に楽しめる環境づくりに取り組む。

印西市企画提案型協働事業　事後評価シート（比較表）

記入日　　令和　8年5月8日
記入団体名　みんなのいっぽ
※市の場合は、所管部署名

記入日　　令和　8年　5月13日
記入団体名　環境保全課
※市の場合は、所管部署名

1．事業概要

事業名称・事業年数		グリーンカーテン大作戦！「CO2を減らそう！ストップ温暖化大作戦！」・3年目
事業の実施者	実施団体名	みんなのいっぽ
	所管部署	環境保全課

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

設問		回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	(1．実施した)	2．しなかった		
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			

協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

・情報共有にすれ違いがないよう、こまめに連絡を取るように気を付けた。

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

設問		回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れを参考としましたか。	(1．した)	2．しなかった		
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			

協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

・公共施設のグリーンカーテンの設置について、工事期間に入る施設の確認や、設置できるかどうか、など情報共有した。

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

設問		回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	(1．実施した)	2．しなかった		
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			

協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

事業を適正に行うため、適宜相談や協議を行うことが出来た。

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

設問		回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れを参考としましたか。	(1．した)	2．しなかった		
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			

協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

事業内容や最終的な目標・役割分担等を確認することができた。

記入団体名　みんなのいっぽ

	設問	回答			
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1．行った　2．行えなかった			
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	1．残した　2．残さなかった			
	事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。				
	・役所の異動のタイミングと、本事業の主要な活動タイミングが重なることに課題があることが分かった。活動スケジュールやタスクを共有することで、行き違いなく分担できるよう協議し対応策を共有することができた。 ・公共施設で種を設置する際、多くの市民に配布できるよう、周知のタイミングに気を付けた。また、コンテストも一緒に周知できるように、今後はチラシとセットにして種を配布できるよう工夫することにした。				
協働事業実施後	設問	回答			
	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。				
	・出前授業をすることによって、約500人の子どもたちと、地球温暖化について考え、一人ひとりが考えるきっかけを作ることができた。また、SNSを活用し情報発信することで本事業を広めることができた。 ・出前授業の様子や、環境フェスタ、コンテストなどをSNSで発信し広く市民に知らせるようにした。				
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない			
	回答の理由を詳しく記入してください。				
	・環境保全課が窓口になることで、学校での出前授業を開催することができたり、公共施設でのグリーンカーテン設置をスムーズに実施することができた。 ・当団体が出前授業を実施したり、種や苗を配布するイベントを実施したりした。我々が市民と直接関わることにより、地球温暖化について関心をひろげることができ意識啓発につながった。				
	Q15 資金負担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない			
	回答の理由を詳しく記入してください。				
	・苗や種の育成、グリーンカーテンの設置、コンテストの普及啓蒙にかかる資金を負担していただけたことで、地球温暖化に対する市民の意識啓発するきっかけをつくることができた。				

記入団体名　環境保全課

	設問	回答			
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1．行った　2．行えなかった			
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	1．残した　2．残さなかった			
	事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。				
	適宜打ち合わせや意見交換、状況報告を行い、事業を実施することが出来た。				
協働事業実施後	設問	回答			
	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。				
	公式LINE、インスタグラム、youttubeを活用し、発信を行った。				
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない			
	回答の理由を詳しく記入してください。				
	種や苗の配布、グリーンカーテンの設置や育成サポート、出前授業、コンテストの運営等、すべての事業において、積極的に意見を言っていただけたり、報告や相談の情報交換も頻繁に行っていただけた。そのため、担当課としても、適宜調整を行うことができ、事業をスムーズに行うことが出来たと考える。				
	Q15 資金負担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない			
	回答の理由を詳しく記入してください。				
	必要な経費を適切に使用し、事業の運営をしていただくことが出来たと考える。				

記入団体名　みんなのいっぽ

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

	設問	回答			
協働事業実施後	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○			
	実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	・種や苗の配布、グリーンカーテンの設置、出前授業、コンテストを計画通りに実施することができた。				
	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
			○		
	達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	・コンテスト応募者数を増やすことができた。（42→52）※協働事業実施前は12 ・出前授業による意識の啓発（約500名の子どもたちと一緒に地球温暖化について考えることができた。） ・毎年新規に本事業への参加者を増やすことができた。当団体が実施したアンケートによると、コンテストにエントリーした8割が家庭菜園ビギナーで、本事業をきっかけに今後も継続したいと答えている。 ・SNS登録者数は、前年より278名増えている。				
	Q18 経費の支出は適切でしたか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
			○		
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。				
	Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
		○			
	効果があった点や課題を具体的に記入してください。				
	・公共施設や学校でのグリーンカーテンの設置、種や苗の配布は、協働事業であるからこそスムーズに取り組むことができた。単独の事業だと、関心が高い人にした届かないため、協働事業だからこそ裾野を広げていけると感じている。				
	Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	1．思う	2．思わない		
	改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。				
	・環境問題に関心があるものの何に取り組めばよいのかわからないという多くの市民の声に対して、手軽に取り組めるグリーンカーテンを提案し広めることができたと思う。また、関心のない人にも意識を向けてもらえるように、公共施設や学校でPRすることができた。環境問題に関心のない人たちにも、意識をむけるきっかけを作ることができている。				

記入団体名　環境保全課

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

	設問	回答			
協働事業実施後	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
			○		
	実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	種や苗の配布（市公共施設等では820袋、苗668苗）、公共施設・市内小学校等へのグリーンカーテンの設置（6箇所）、小学校での出前授業（3校）を実施した上で、グリーンカーテンコンテストを開催することができた。グリーンカーテンコンテストの応募件数は52件、公式LINEの登録者数は293（前年188）、公式Instagramのフォロワー数は494（前年321）となった。				
	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
			○		
	達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	目標→実績 ①公式LINE・Instagram登録者数合計　前年度より150人増→278件増 ②コンテスト応募件数　100件→52件 ③出前講座・イベント参加者合計　400人→700名以上 事業活動の周知及び環境意識の啓発については成果が着実に出ている反面、コンテストの応募者数は、昨年度と比較して件数が微増となっている。気候の変化等の外的要因もある中で育成を行っていくためには工夫や知識が必要であることから、育成のサポートや情報発信を行っていく。				
	Q18 経費の支出は適切でしたか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
		○			
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。				
	事業の実施に際し、事業費として適正な資金であった。				
	Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
		○			
	効果があった点や課題を具体的に記入してください。				
	元教職員や農業従事者としてのノウハウ、また、事業への積極性を持った市民団体との協働事業であったため、市単独で事業を実施するよりも効果的にグリーンカーテン事業の普及啓発を行うことが出来たと考える。				
	Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	1．思う	2．思わない		
	改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。				
	出前授業を受け、グリーンカーテン事業に興味や関心を持った方、地球温暖化対策に意欲を持たれた方が多かった。また、事業の周知によって、グリーンカーテンにチャレンジする方や、コンテストへの応募件数も増加傾向にある。				

記入団体名　みんなのいっぽ

感想及び意見 数値では表せない、事業を実施している中で感じた、現場の変化や声などをご記入下さい。
・出前授業の時に、子どもにアンケートを実施した。子どもなりに環境問題に関心を高め、自分にできることを考えるきっかけをつくることができたということがわかった。また、学校の先生にも好評だと聞き、手ごたえを感じている。 ・本事業は、年度初めに主要な活動があるため、担当者の異動があると混乱が生じる可能性があることが分かった。担当者が急に変わったとしても情報共有を確実にするために、4月から5月のスケジュール（役割分担）を一覧にしてお互いスムーズに事業を遂行できるように工夫した。
今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。
・今後は、コンテスト応募者を増やし市民に広く啓発するために、市の広報や公式ライン、公式Xなどで情報発信していく。 ・学校で子どもたち向けに授業することが、環境問題に対する意識啓発につながると感じている。そのために、学校にアンケートを実施し、グリーンカーテン設置や環境授業についてサポートできるところはないか調査を実施した。これからも私たちにできることを探っていきたい。

記入団体名　環境保全課

感想及び意見 数値では表せない、事業を実施している中で感じた、現場の変化や声などをご記入下さい。
小学校の出前授業およびグリーンカーテンの設置について、新規で1校追加したが、好評の声をいただいた。また、子どもたちからも、環境問題に対して出来ることをやっていきたいという意欲ある声をいただくことができた。 グリーンカーテンコンテストについても、コンテスト参加者からはグリーンカーテンがもたらす効果について、前向きな意見をいただくことができた。
今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。
出前授業やグリーンカーテンの設置について、市内小学校に対して周知をはかり、可能な限り多くの小学校に事業内容を広めることを検討する。 また、公共施設等で行っている種や苗の配布について、実際にグリーンカーテンの育成に繋げていくために、効果的な配布方法を検討する。

印西市企画提案型協働事業　事後評価シート（比較表）

記入日　令和8年5月7日
記入団体名　一般社団法人SODO等
※市の場合は、所管部署名

記入日　令和8年5月12日
記入団体名　環境保全課
※市の場合は、所管部署名

1．事業概要

事業名称・事業年数		里山の水循環と生物多様性の保全及び地域活性化のための官民連携事業・1年目
事業の実施者	実施団体名	一般社団法人SODO、NPO法人 亀成川を愛する会、特定非営利法人ラーバン千葉ネットワーク、特定非営利活動法人谷田武西の原っぱと森の会
	所管部署	環境保全課

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

	設問	回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	1．実施した（○）	2．しなかった		
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			

協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

特にありません。十分なコミュニケーションが図れていると考えています。

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

	設問	回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れを参考としましたか。	1．した（○）	2．しなかった		
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			

協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

難易度の高いテーマであり、役割や目標設定の分担、事業成果については、関係者による会議等で都度必要な協議を行い、設定しました。

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

	設問	回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	1．実施した（○）	2．しなかった		
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			

協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

適時協議を行った。

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

	設問	回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れを参考としましたか。	1．した（○）	2．しなかった		
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q8	最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			

協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

関係者で会議を開き、目標や役割分担などの協議を行った。

記入団体名　一般社団法人SODO等

	設問	回答
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1．行った　2．行えなかった
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた：○／できた／不十分／全くできなかった
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた：○／できた／不十分／全くできなかった
	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	1．残した　2．残さなかった
	事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。	
	月1回の協議会の他、メールや電話で密にコミュニケーションを図っており、課題の共有は十分にできていると考えています。また、難しいテーマであり、常に試行錯誤しながら事業を進めており、取組結果を踏まえて柔軟に見直しを図りつつ取組を進めました。	
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた／できた：○／不十分／全くできなかった
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。	
	下記のような取組を行いましたが、事業初年度であり、改善の余地はあると考えています。本取組は緒についたところであり、成果の共有・発信については、今後も引き続き連携・強化を図りつつ取組んでいく予定です。 ・一般市民向けにグリーンインフラの取組や協議会設立等の周知（6月：いんざい環境フェスタ） ・印西市内の里山保全活動団体や関連団体へのヒアリングやアンケート ・市民団体交流会の開催 ・協議会HPの立ち上げ ・関連事業（印旛沼流域水循環健全化会議：千葉県）、市外イベントでの取組紹介	
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	実施したそれぞれの取組において、関係者の役割や責任分担について、協議会で必要な調整を行うとともに、詳細な事項等はメールや電話も用いて、合意形成を図りつつ取組を進めました。 また、取組実施後、イベント開催後は協議会で振り返りを行い、以降の取組に活かしています。	
	Q15 資金負担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	提案時に想定していた以上の労力を投入し、想定以上の成果を得ることができたと考えているため、適切であったと判断しています。	

記入団体名　環境保全課

	設問	回答
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	1．行った　2．行えなかった
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた：○／できた／不十分／全くできなかった
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた：○／できた／不十分／全くできなかった
	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	1．残した　2．残さなかった
	事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。	
	毎月の協議会のほか、必要に応じて都度コミュニケーションを図った。 課題や新たな提案に対して柔軟に取り組んでいる。	
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた／できた：○／不十分／全くできなかった
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。 不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。	
	環境フェスタへの出展、里山保全活動団体のヒアリング、ホームページの開設、市民活動団体交流会の開催など市民向けの活動も行った。 ホームページ内容の充実、対象を広げた交流会の開催など改善できる点はある。	
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	毎月の協議会や、都度コミュニケーションを取ることで適切にできた。	
	Q15 資金負担は適切でしたか。	1．適切　2．適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	各種業務において、資料作りやイベント開催、ヒアリングなど丁寧に取り組んでいただき適切と考える。	

記入団体名　一般社団法人SODO等

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

協働事業実施後

設問	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	○			

実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

別紙の通り

Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
	○			

達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

数量的な成果は下記の通りであり、目標は達成できたと考えています。（内容は別紙参照）
・イベントでの一般市民へのグリーンインフラの周知（6月：印西環境フェスタ）
・印西市内の里山保全活動団体の把握（10団体）
・協議会メンバーの追加（1団体、8月）
・自然共生サイトへの登録（9月：武西の里山）、登録に向けた準備（亀成川）
・協議会の開催（月1回、計12回開催）※平均11人参加
・交流会の開催（2月開催：33名参加）
・庁内グリーンインフラワークショップの開催（37名参加）

また、本取組を1年間実施した結果、里山保全活動団体や関連団体の現状を把握することができ、その上で、多様な主体の連携による印西市の里山における、「生物多様性」、「水循環」等のグリーンインフラ機能の保全・活用に向けた体制づくりに向けて進捗したと考えています。

Q18 経費の支出は適切でしたか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
	○			

適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。

適切でない支出はありません。

Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
	○			

効果があった点や課題を具体的に記入してください。

本取組を推進するためには、里山保全活動団体や関心のある団体・市民・企業、行政など、多種多様な主体の連携が必要です。協働で事業を行い、市民団体、行政（印西市）双方の現状、考え方、抱える課題を共有するとともに、双方の立場を理解することで、効果的に事業を進めることが出来たと考えます。

Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	1．思う（○）	2．思わない

改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。

多様な主体の連携による印西市の里山における、「生物多様性」、「水循環」等のグリーンインフラ機能の保全・活用に向けた体制づくりに向けて進捗したと考えています。
本取組で目指す状態を実現するためには、継続的な取組が不可欠であり、今後も引き続き事業を実施していくことが望まれます。

記入団体名　環境保全課

3．事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

協働事業実施後

設問	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	○			

実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

・グリーンインフラマップ作成
・ホームページ作成

Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
	○			

達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。

本事業の1年目での目標、目的は達成できたと思う。
成果数値
・グリーンインフラマップ作成
・ホームページ作成
・印西環境フェスタ出展
・印西市内の里山保全活動団体の把握（10団体）
・自然共生サイトへの登録（9月：武西の里山）、登録に向けた準備（亀成川）
・協議会の開催（月1回、計12回開催）
・交流会の開催（2月開催：33名参加）
・庁内グリーンインフラワークショップの開催（37名参加）

Q18 経費の支出は適切でしたか。	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
	○			

適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。

適切であった。

Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
	○			

効果があった点や課題を具体的に記入してください。

市民活動団体や研究者など多様な主体と連携することで、それぞれ抱えている課題などを共有し意見を交換しながら、次に何をしていくべきか検討することができたのは本事業の大きな意義であると感じた。

Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	1．思う（○）	2．思わない

改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。

各市民活動団体が一同に集まり意見交換できる体制を構築できたことは改善につながったと思う。
さらに多くの方に波及できればより良いと思う。

記入団体名　一般社団法人SODO等	記入団体名　環境保全課
感想及び意見 数値では表せない、事業を実施している中で感じた、現場の変化や声などをご記入下さい。	**感想及び意見** 数値では表せない、事業を実施している中で感じた、現場の変化や声などをご記入下さい。
（協議会・団体交流会）：市民団体同士の交流の機会はこれまで意外に少なかったことが分かりました。協議会が出来たこと、交流会を開催したことについて、各団体より「良かった」といった前向きな評価をいただいています。今後もプラットフォームとしてそのような機能を果たすことが多様な主体の連携による印西市のグリーンインフラ機能の保全・活用に向けた体制づくりにつながると考えます。 （庁内グリーンインフラワークショップ）：参加された印西市職員の方に、連携による取組の可能性や、各部局における行政課題の解決にグリーンインフラの取組が役立つことを理解いただけたことから、今後、連携による取組推進に向けて活動していければと思います。	この事業のメンバーで他市に情報収集のためヒアリングに行くなど、今までになかった連携が図れている。この事業を通じて、これまでなかった市民活動団体間の交流を図ることができた。団体からは交流会に参加してよかったとの声が聞かれた。
今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。	**今後の展望** 事業の今後についての見通しをご記入ください。
連携のプラットフォームとして継続的に協議会を運営するとともに、大きな課題となっている担い手の確保方策について、具体的な取組を進めていきたいと考えています。	担い手確保の仕組みづくりを検討しているので、引き続き具体化すべく進めていく。 対象者を拡大したイベントの開催を検討する。

令和7年度 里山の水循環と生物多様性の保全及び地域活性化のための官民連携事業　－当初提案内容と実績－

別紙

当初提案内容	実　績
① 対象地（印西市の緑地等）の現況把握 協働によるグリーンインフラの保全・活用が実施可能な場所を把握するため、印西市における緑地等のマップ・リストを作成します。 【具体的な実施内容】 ・市有地・管理地等に関する情報提供（印西市） ・グリーンインフラとしてのポテンシャルの分布（国立環境研究所） ・上記情報のマップ（GISによる作業を想定）の作成 	・市有地・管理地（公園・緑地）データのデジタル化（GISデータ作成） ・ポテンシャルマップの重ね合わせ（GISデータとして整備） ※印西市内のグリーンインフラとしてのポテンシャルの分布の可視化
② 印西市における里山保全活動団体等の現況把握 協働によるグリーンインフラの保全・活用の担い手となり得る活動団体等を把握します。 【具体的な実施内容】 ・市内の活動団体等に関する情報提供（印西市） ・活動団体の現状や課題の把握　※交流会等でも把握 ・上記情報の整理	・市内の活動団体のリストアップ ・団体活動場所のマップ表示 ・団体へのヒアリング ・交流会での現状把握 ※各団体との連携の環境整備
③ 対象地における事業計画の検討 上記①②を基礎データとして、印西市の緑地等におけるグリーンインフラの保全・活用に関する新たな取組を検討します。 【具体的な実施内容】 ・先進地域における取組調査、印西市での適用に係る検討 ・協働による新たなグリーンインフラの保全・活用の新たな取組（場所、担い手）に係る検討 ・自然共生サイトへの登録に係る検討	・国や他地域等での事例調査 ・担い手確保方策に関する検討 ・自然共生サイトへの登録に関する作業支援 ※今後のグリーンインフラの保全・活用に向けた取組の検討・実施
④ 多様な主体の連携に係る検討 多様な主体の連携による印西市内のグリーンインフラの保全・活用を推進するため、市民活動団体間、市民活動団体と企業、住民等との連携促進に係る検討を実施します。 【具体的な実施内容】 ・先進地域における取組調査、印西市での適用に係る検討 ・市民活動団体の課題（②）を踏まえた連携のあり方の検討 ・市民活動団体間の交流促進のための交流会の開催 ・様々な主体の連携につながるイベントの開催	・国や他地域等での事例調査 ・団体へのヒアリング ・交流会の開催 ※連携に係る課題の把握・連携に向けた環境整備
⑤ 協議会の継続的な運営のあり方の検討 本事業で設置する協議会は今後も継続的・発展的に運営されることが望ましいことから、継続的な運営を可能とする運営体制、取組内容等について、検討します。 【具体的な実施内容】 ・先進地域における取組調査、印西市での適用に係る検討 ・運営のあり方に係る検討	・取組結果を踏まえた課題や方向性の整理（協議会の目指す姿） ※協議会の活動内容／協議会が目指す姿／連携事業の目標／協議会が目指す状態（短期・中期・長期）／ロードマップ／協議会の将来形の検討
⑥ 事業の広報 1）事業内容・事業成果の情報発信（ホームページ） ・事業で作成したマップや資料、協議会での検討結果等の情報発信 2）イベント等の企画・開催 a）グリーンインフライベント：一般市民・若者・企業向け b）庁内勉強会の開催：印西市役所内行政職員向け c）里山保全団体交流会の開催	・いんざい環境フェスタ（6/7） ・団体交流会（2/11） ・庁内GIワークショップ（3/17） ・協議会HPの構築：各イベントの開催結果紹介、協議会資料共有 ※グリーンインフラに関する取組の理解促進（市民、庁内）、団体の連携促進

印西市企画提案型協働事業　事後評価シート（比較表）

記入日　令和8年4月28日
記入団体名　印西市市民公益活動団体Shake Hands
※市の場合は、所管部署名

記入日　令和8年5月11日
記入団体名　市民活動推進課
※市の場合は、所管部署名

1．事業概要

事業名称・事業年数		男女共同参画推進事業　#私たちの保健室～みんなで繋がり合える印西市を目指して～・1年目
事業の実施者	実施団体名	印西市市民公益活動団体Shake Hands
	所管部署	市民活動推進課男女共同参画係

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

	設問	回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	①．実施した	2．しなかった		
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			

協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

①事業の方向性と市の課題の整合性：印西市の男女共同参画計画や地域福祉計画に照らし、「性教育」や「セルフケア」という切り口が、単なる個人の学びではなく、地域の孤立防止や多世代交流にどう寄与するか、市の担当課と認識の擦り合わせを重点的に行いました。
②「性の話題」への心理的ハードルの考慮：「性教育」という言葉が持つタブー視されやすい側面を考慮し、市民が気軽に参加できるよう「保健室」や「カフェ」といった、日常に馴染みのある柔らかい見せ方（ネーミングや広報のトーン）にすることの重要性について協議しました。
③「性の話題」への心理的ハードルの考慮：「性教育」という言葉が持つタブー視されやすい側面を考慮し、市民が気軽に参加できるよう「保健室」や「カフェ」といった、日常に馴染みのある柔らかい見せ方（ネーミングや広報のトーン）にすることの重要性について協議しました。

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

	設問	回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れを参考としましたか。	①．した	2．しなかった		
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			

2．事業のプロセス評価

協働事業開始前（提案書提出前）

	設問	回答			
Q1	申請者と関係各課との間で相談や協議を行いましたか。	①．実施した	2．しなかった		
Q2	相談や協議を行うことにより、相手方の主張について理解を深められましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			

協議時に留意した点や気になった点などを以下に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。

計画しているイベント等、事業量の多さ。

協働事業開始前（アイデア審査後～最終審査前）

	設問	回答			
Q3	事業の詳細を協議するにあたり「企画提案型協働事業実施要領」の事業の流れを参考としましたか。	①．した	2．しなかった		
Q4	お互いの立場、置かれている状況、特性を理解できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q5	協議は対等・協力的に行えましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q6	共有すべき課題について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
Q7	互いの果たすべき役割の認識・目標の分担ができましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		

記入団体名 印西市市民公益活動団体Shake Hands

協働事業開始前（アイデア審査前）～最終審査後	Q8 最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
	協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。				
	①実施体制と継続性の具体化：アイデア審査でのフィードバックを受け、単発のイベント（映画上映会や講座）だけでなく、毎月定例で開催する「こっトンカフェ」の有効性について深掘りしました。スタッフの配置や、有資格者（理学療法士、心理士等）との連携、大学生ボランティアの参画など、事業を支える人的ネットワークの具体化について協議しました。 ②公共施設の有効活用と周知方法：コスモスパレットやそうふけ公民館、商業施設（イオンモール）など、ターゲット層（子育て世代から高齢者まで）が足を運びやすい場所での開催可能性と、それぞれの場所に応じた広報戦略（ポスター掲示やSNS活用、広報いんざいへの掲載時期）について詳細に詰めました。 ③成果指標（KPI）の設定：「繋がりの創出」という数値化しにくい成果を、どのように評価するかを議論しました。参加人数だけでなく、アンケートによる意識変容の把握や、こっトンカフェを通じて他の地域資源（民生委員や防災イベント等）へ繋がった事例（リファー数）を実績としてカウントする手法について留意しました。				

	設問	回答			
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	①. 行った　　2. 行えなかった			
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			

記入団体名　市民活動推進課

協働事業開始前（アイデア審査前）～最終審査後	Q8 最終的な協働事業効果・事業成果について確認できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
	協議時に留意した点や気になった点などを記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。				
	市民団体が想定していた事業内容の中に、市内小中学校での生理用品の配布や授業の実施なども含まれていたため、市民活動推進課と協働する事業に焦点を絞り整理した。				

	設問	回答			
協働事業実施中	Q9 事業の中間報告や市担当職員が現地に赴くなど、パートナー双方が進捗状況を確認したり、自由な意見交換を行いましたか。	①. 行った　　2. 行えなかった			
	Q10 当初の課題についてより深く理解し、新たな課題を共有できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
	Q11 当初の事業内容や協議事項に変更が生じた際、柔軟に対応できましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		

記入団体名 印西市市民公益活動団体Shake Hands

協働事業実施中	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	① 残した　　2. 残さなかった
	事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。	
	【留意した点：心理的安全性の確保と居場所づくり】 ①「相談」のハードルを下げる工夫： 性教育や家庭内の悩みはデリケートな話題であるため、単なる「相談窓口」ではなく、「こっトンカフェ」という名称で、お茶を飲みながらリラックスできる空間づくりを徹底しました。報告書（12月、2月等）にあるように、参加者が「ここに来るのを心待ちにしていた」と感じられるよう、スタッフは傾聴の姿勢を重視し、否定されない安心感を提供することに留意しました。 ②多角的なアプローチ： アロマ製作や映画上映会、絵本の読み聞かせなど、多様な「体験」を入り口にすることで、男女共同参画や性教育といった抽象的なテーマを、自分自身の心身の健康（セルフケア）として捉え直せるようプログラムを構成しました。 【留意した点：関係機関・地域資源との連携】 ①「繋ぎ」の役割： 団体の活動内で完結させるのではなく、必要に応じて市の「介護リアン」や専門の相談窓口を紹介するなど、行政サービスと市民を繋ぐ「ハブ」としての役割を意識しました。実際に、紹介を通じて参加者の生活課題が改善した事例（9月報告）もあり、協働の効果を最大化させる運用に努めました。 ②次世代の参画： 大学生ボランティアをスタッフとして登用し、若い世代の視点を取り入れるとともに、多世代が交流する風景を意図的に作ることで、全世代にとっての「自分事化」を促進しました。 【気になった点：ターゲットの広がりと運営面】 ①男性の参加促進： イオンモール等の大規模イベントでは男性の参加も多く見られましたが、日常的なカフェ事業では依然として女性が中心でした。真の男女共同参画推進のためには、男性も「ふらっと」立ち寄りやすいテーマ設定や開催時間（土日・夜間等）の工夫がさらに必要であると感じました。 ②会場設営とプライバシーのバランス： 商業施設などの開かれた場所での実施（8月イオンモール等）では、周知効果が高い反面、ベビーカーの導線確保や、深い相談に入った際のプライバシー確保の両立が課題となりました。今後は、ブースの配置や仕切り方にさらなる工夫の余地があると考えています。	

記入団体名　市民活動推進課

協働事業実施中	Q12 打ち合わせ事項（合意事項）は記録に残しましたか。	1. 残した　　②. 残さなかった
	事業実施に当たって留意した点や気になった点などをご記入ください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。	
	実施した全ての事業に担当課も同席し、常にコミュニケーションや共通理解を図るよう心掛けた。当初の計画を大幅に変更するようなことはなかったため、特に打ち合わせの場を設けることはなかった。	

記入団体名 印西市市民公益活動団体Shake Hands

	設問	回答			
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
		○			
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。				
	1. デジタルメディアによる発信（即時性と継続的アプローチ） ①Instagramおよび公式LINEの活用：毎月の「こっトンカフェ」の開催様子や、講座・イベントの募集、実施後のダイジェストを写真と共に発信しました。特に公式LINEは、一度繋がった参加者へ継続的に情報を届ける「保健室」としての機能を果たし、個別相談の予約や地域情報の共有にも活用しました。 ②SNSを通じた他団体との連携：投稿を通じて他市（世田谷区等）の支援団体や、市内の理学療法士、市民活動団体と繋がり、互いの活動をシェアすることで、男女共同参画の視点をより広い層へ拡散しました。 2. 公的媒体・紙媒体による発信（信頼性と幅広い層への周知） ①「広報いんざい」および市ホームページへの掲載：映画上映会（8月・2月）や大規模イベント（12月）等の主要事業については、市の媒体を活用して広く周知を行いました。これにより、普段SNSを利用しない高齢者層や、これまで市民活動に関心がなかった層へのリーチが可能となりました。 ②公共施設および商業施設でのポスター・チラシ掲示：印旛支所、コスモスパレット、市民活動支援センター等の公共施設に加え、イオンモール千葉ニュータウン等の商業施設にもポスターを掲示しました。実際に「支所のポスターを見た」という方の来場が多く見られ、対面相談のきっかけ作りとして非常に有効でした。 3. イベント・対面を通じた成果共有（現場の可視化） ①啓発パネルの展示：8月や12月の大規模イベント時において、これまでの活動内容や「＃私たちの保健室」のコンセプトをまとめたパネル展示を行いました。活動の様子を写真で可視化することで、来場者が事業の目的を直感的に理解し、自分事として捉えられるよう工夫しました。 ②「トイレ新聞」等の独自媒体の活用：講座で得た知識やセルフケアのヒントをまとめた資料を配布し、家庭内での対話のきっかけとして活用してもらいました。 ③関係機関へのリファラル（紹介）活動：「こっトンカフェ」を通じて得られた市民の声を、市の担当課や民生委員、ファミリーサポートセンター等の関係機関と共有（プライバシーに配慮した上で）し、支援のネットワークを広げることで、事業の成果を地域資源の活性化に繋げました。				
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	① 適切　　2. 適切でない			
	回答の理由を詳しく記入してください。				
	団体が持つ専門知識（性教育、心理ケア、アロマ等）を活かしたプログラムの企画・運営と、市が持つ広報力や公共施設（コスモスパレット、そうふけ公民館等）の提供、および他部署との連携調整という役割分担が明確でした。現場の柔軟な対応は団体が担い、公的な信頼性の裏付けを市が担うことで、円滑な事業遂行が可能となりました。				

記入団体名　市民活動推進課

	設問	回答			
協働事業実施後	Q13 成果を広く市民と共有できるよう取り組みましたか。	十分できた	できた	不十分	全くできなかった
			○		
	成果を共有するに当たり、どのような方法で情報発信を行ったか具体的に記入してください。不十分と回答した場合はその理由と今後の対応について記入して下さい。				
	ホームページにて協働事業の実施報告を公開している。				
	Q14 役割や責任分担は適切でしたか。	①. 適切　　2. 適切でない			
	回答の理由を詳しく記入してください。				
	市民団体は専門的な知識や手法の提案、市は会場の確保や参加者のとりまとめなどそれぞれが負うべきの役割を果たせていた。				

記入団体名 印西市市民公益活動団体Shake Hands

協働事業実施後	Q15 資金負担は適切でしたか。	① 適切　　2. 適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	委託料により、専門講師の招聘や高品質な映画上映会の開催、ワークショップの材料費、啓発用生理用品の調達などが支障なく行えました。事業規模に対して適切な予算配分であり、市民へ質の高いサービスを無償または安価に提供できたと考えています。	

3. 事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

	設問	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
協働事業実施後	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	○			
	実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	毎月第3火曜日の「こっトンカフェ」10回の開催、性教育講座、映画上映会2回、大型イベント、ワークショップ等、当初計画していたすべての主要事業を完遂しました。また、イオンモールでの啓発活動など、当初の想定以上に多くの市民と接点を持つ機会も創出できました。				
	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。	○			
	達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	成果目標（講座開催数や人数、草刈り等の回数、発行回数、配付数量等）を具体的に示しながら、達成状況を記載してください。 達成状況：「地域の保健室」として、多世代が繋がり、悩みや知識を共有する場を確立できました。 ①講座・イベント開催：計16回（性教育1、映画上映2、ワークショップ1、大型イベント2、相談10）を実施し、延べ396名が参加。 ②相談事業（こっトンカフェ）：計10回開催。毎回5～9組の来訪があり、延べ約74名の個別相談・交流に対応。 ③普及啓発：コスモスパレットや文化ホール等での無償生理用品の提供を通じ、活動への理解者を広げ、新たに3名の補充ボランティアの申し出を受けるなどの波及効果もありました。 ④目的の達成：孤立しがちな高齢者や子育て世代が継続して来場する「居場所」となり、性教育を通じて自分を大切にする意識を育むという目的を十分に果たせました。				
	Q18 経費の支出は適切でしたか。	○			
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。				
	各事業において、適正な価格での備品購入や講師謝礼の支払いを行いました。支出はすべて事業計画に基づいたものであり、領収書等の管理も適正に行い、無駄のない運用を徹底しました。				

記入団体名　市民活動推進課

協働事業実施後	Q15 資金負担は適切でしたか。	①. 適切　　2. 適切でない
	回答の理由を詳しく記入してください。	
	契約前の協議により部分払いを適用することとした。	

3. 事業の成果評価（事業計画書や事業完了報告書を踏まえて）

	設問	十分できた	できた	一部できなかった	全くできなかった
協働事業実施後	Q16 事業は当初の計画どおり実施できたと思いますか。	○			
	実施できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	講演会やイベント、ワークショップ、相談事業についてすべて計画通りに実施することができた。				
	Q17 当初設定した成果目標や事業目的は達成できたと思いますか。		○		
	達成できた点（できなかった点）を具体的に記入してください。				
	6/14（土）「生命の安全教育講演会」定員20人参加者24人 8/5（火）「映画「生まれる」上映会①」定員50人参加者55人 8/9（土）「フェムケアイベント夏」定員100人参加者107人 10/4（土）「癒しのワークショップ」定員20人参加者18人 12/20（土）「フェムケアイベント冬」定員100人参加者108人 2/15（日）「映画「生まれる」上映会②」定員50人参加者25人 6月～3月第3火曜日「相談事業こっトンカフェ」定員10回60人参加者72人				
	Q18 経費の支出は適切でしたか。		○		
	適切でない支出があった場合は、その内容と理由を具体的に記入してください。				

記入団体名　印西市市民公益活動団体Shake Hands

協働事業実施後	Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
		○			
	効果があった点や課題を具体的に記入してください。				
	①効果があった点：「広報いんざい」への掲載や公共施設でのチラシ掲示により、団体のSNSだけでは届かない層（特にネットを利用しない高齢層）へアピールできました。その結果、支所の掲示を見て来場した70代女性が市の「介護リアン」に繋がり、生活課題を解決するといった、行政のセーフティネットと市民を繋ぐ具体的な成果が得られました。 ②課題：広報の締め切りと事業詳細の決定タイミングの調整に時間を要する場合があったため、次年度はより早期のスケジュール管理が必要です。				
	Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	① 思う　　2. 思わない			
	改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。				
	①改善が図られた点：性教育講座や映画上映会を通じ、性の話題をタブー視せず「自分を大切にすること」として捉え直すきっかけを提供し、男女共同参画への心理的ハードルを下げることができました。また、不登校や介護、自身の健康に悩む市民に対し、カフェを通じた対面での傾聴を行うことで、精神的な孤立の解消に寄与しました。 ②課題が残った点：依然として平日開催のカフェは女性の参加が中心であるため、現役世代や男性も参加しやすい土日のプログラム拡充が今後の課題です。				

感想及び意見

数値では表せない、事業を実施している中で感じた、現場の変化や声などをご記入下さい。

1年間の活動を通じて、単なるイベントの参加人数という数字以上に、市民の「マインドの変化」と「自発的な繋がり」という大きな成果を感じることができました。
① 「タブー」から「セルフケア」への意識変容
当初は「性教育」という言葉に戸惑いを持つ参加者もいましたが、講座やワークショップを重ねる中で、「性は自分を大切にすること、自分を守ること」という捉え方に変わっていく姿が印象的でした。保護者からは「親がまず学ぶ必要があった」「家庭での対話が増えた」という声が寄せられ、アロマ製作などのセルフケアを通じて、自身の心身の状態に目を向ける重要性が浸透していきました。
②孤独を解消する「心の安全基地」としての定着
毎月の「こっトンカフェ」は、介護や不登校、家庭内の葛藤を抱える市民にとって、日常では吐き出せない思いを安心して話せる「居場所」となりました。「ここに来るのを心待ちにしていた」「話せる場所ができて嬉しい」と涙ぐむ場面や、70代の女性が「ここに来ると元気が出るし、新しい情報が得られる」と繰り返し来場される姿は、この事業が市民の精神的な支え（地域の保健室）として機能したことを象徴しています。
③「支援される側」から「支援する側」への循環
特筆すべきは、活動を通じて市民の主体性が芽生えたことです。市内18公共施設に設置した無償の生理用品を見た方が「温かい気持ちになった。自分も力になりたい」と補充ボランティアを申し出たり（10月・2月報告）、専門職（理学療法士、作業療法士、法律関係職など）の参加者が「自分のスキルを街のために活かしたい」と企画を提案してくれる事例が相次ぎました。単なるサービス提供に留まらず、市民が共に地域を良くしようとする「循環」が生まれ始めています。
④多世代が自然に混ざり合う風景
こっトンカフェの現場では、80代のご夫婦と30代の母親が共通の知人を見つけて談笑したり、大学生スタッフが子どもたちと遊びながら男性来場者の緊張を解いたりと、世代を超えた自然な交流が日常的に見られました。こうした「斜めの関係」が地域の中に編み直されたことは、男女共同参画社会が目指す「誰もが自分らしく、繋がり合える地域づくり」の確かな一歩になったと確信しています。

記入団体名　市民活動推進課

協働事業実施後	Q19 協働で事業を実施したことは、単独で事業を実施するよりも効果があったと思いますか。	十分あった	あった	一部課題があった	効果がなかった
		○			
	効果があった点や課題を具体的に記入してください。				
	イオンでのフェムケアイベントでは、最新のフェムケア用品の紹介や、関連書籍、絵本の読み聞かせなど幅広い世代の方にさまざまな形でアプローチすることができた。その他の事業でも関連書籍の展示などを通して参加者とのコミュニケーションを図るなど細やかな対応ができた。				
	Q20 事業の実施により、事業計画で示した地域課題の改善につながったと思いますか。	①. 思う　　2. 思わない			
	改善が図られた点や課題が残った点を具体的に記入してください。				
	事業に参加された方々とコミュニケーションを図ったことで繋がりが生まれた。その後の事業にも継続して参加する姿があった。				

感想及び意見

数値では表せない、事業を実施している中で感じた、現場の変化や声などをご記入下さい。

リプロダクティブ・ヘルス／ライツに関する取組は、自分やパートナーの心と体を守るため年齢や性別を問わず皆が知っておくべき大切なことであり、協働事業ではそれを伝えるため、映画や講演会、イベントなどさまざまな手法を用いて市民にアプローチすることができた。また、参加者との会話が生まれ、それぞれの思いや悩みを共有することができたと感じている。

記入団体名 印西市市民公益活動団体Shake Hands

今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。
本年度は「＃私たちの保健室」の基盤づくりの年として、市民が安心して心身の悩みや性を語り合える「居場所」の有効性を証明することができました。来年度以降は、この成果をさらに発展させ、以下の3点を軸に事業を深化させていく見通しです。 ①「地域の保健室」としての機能継続と質の向上 月例の「こっトンカフェ」は、孤立しがちな市民にとって欠かせない居場所として定着しました。今後は、今年度生まれた「利用者からボランティアへ」という自発的な流れを仕組み化し、市民が主体的に運営に携わる「共助」のモデルを強化します。また、専門職（理学療法士、心理士、助産師等）とのネットワークをさらに強固にし、より質の高い伴走型支援を継続します。 ②参加層の拡大と「男性の自分事化」の促進 今年度の課題として残った「男性の参加」や「現役世代へのリーチ」に対し、戦略的なアプローチを試みます。土日の開催回数を増やすほか、男性も興味を持ちやすい「身体のメカニズム」や「防災・防犯」といった切り口から性教育や男女共同参画を捉え直す講座を企画し、性別を問わず誰もが自分らしく生きるための知識をアップデートできる場を目指します。 ③行政・他団体とのさらなる連携による「地域網」の構築 今年度実現した「介護リアン」や「ファミサポ」との連携をさらに一歩進め、分野を越えた「包括的な支援ネットワーク」を構築します。個別の相談を適切な行政サービスや地域活動へとスムーズに繋げる（リファーする）機能を強化することで、本事業を印西市におけるセーフティネットの重要な入口（フロントドア）として機能させていく考えです。 まとめ：「性は、自分を大切にすること」という本事業の根幹となるメッセージを、学校・家庭・地域というあらゆる場面で共有できるよう、啓発活動を継続します。本事業を通じて生まれた小さな繋がりの芽を育て、世代や性別を超えて誰もが「この街に自分の居場所がある」と実感できる、男女共同参画社会の実現に寄与してまいります。

記入団体名　市民活動推進課

今後の展望 事業の今後についての見通しをご記入ください。
事業内容や手法については常に見直しながら継続して取り組んでいきたい。